

## 大崎圏域 (大崎市, 色麻町, 加美町, 涌谷町, 美里町)

### 大崎圏域について

- 大崎圏域は北西部から西部にかけて山形・秋田両県との境をなす奥羽山脈が連なり、東に向かって次第に傾斜しながら平坦地が広がっている。
- 大崎圏域の面積は1,523平方キロメートルで県全体の21%を占め、そのうちの55%が森林、23%が農地を占め、豊かで広大な田園地帯を形成している。
- 大崎圏域の人口は約202千人と県全体の8.8%を占めるが、年々減少傾向にある。高齢化率は県全体で27.5%に対し、31.3%と比較的高くなっている。

### 圏域の観光の現状

- コロナ以前は大崎圏域を訪れる観光客のうち日帰り客が約9割を占めるなど、宿泊客が少ない。また、コロナ以後は少人数旅行の形態に変化しているが、これらの対応が遅れている。
- 大崎圏域は世界農業遺産「大崎耕土」、泉質が多彩な温泉、歴史・文化施設など観光資源が豊富にあるが、明確なターゲットの設定とマーケティングが不足している。
- 大崎圏域にある観光資源の魅力を伝える情報発信力が弱い。

### 圏域の観光の課題

- 長期滞在及び周遊を促す体験型観光メニュー（例：アウトドア、農業体験など）の磨き上げや造成と旅行者のニーズやターゲットに応じた有効な情報発信。
- デジタルを活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の促進及びSNS等による効果的な情報発信のためのITに強い人材の確保。
- 世界農業遺産を構成する多様な資源と観光との一層の連携。

### 圏域の施策の方向性及び取組

#### <計画期間で対応が必要な取組>

- 三陸沿岸道の全線開通及びコロナ禍におけるマイクロツーリズムを契機とした観光客に対し、SNSを活用しながら大崎圏域の魅力を情報発信する。
- 鳴子温泉街の閉鎖したホテル等の建物の撤去など、「長期滞在したい」温泉街への変化を支援し、ワーケーション、ブレッジャー等に適した環境の整備を行う。
- 世界農業遺産としての魅力を活かし、教育旅行及び農泊について農業体験等ができるよう受入体制の強化を支援する。
- 観光のデジタル化（例：非接触型サービス、デジタルマーケティングなど）の促進、SNS等のさらなる活用のため、ITに強い観光事業者が増えるよう研修会等を継続して行う。

#### <中長期的に対応が必要な取組>

- 長期滞在の観光地となるよう観光資源の磨き上げを支援する。また、移住希望者が観光地における空き店舗を活用した事業ができるよう支援に取り組む。
- 観光と「食・農」との連携を進め、その基盤となっている暮らし・伝統行事などの郷土の特色及び地元で活躍している人を周知することでシビックプライドの啓発、醸成を図る。



感覚ミュージアム（大崎市）



シャクヤクまつり（色麻町）



土田畑村（美里町）